

塩谷郡市医師会だより

Contents

- 1 第11回塩谷郡市医師会市民公開講座
- 2 平成27年度第3回役員会報告
- 3 学術講演会報告
- 4 シリーズ「塩谷医療史」18

一般社団法人 塩谷郡市医師会
広報委員会

〒329-1312

さくら市桜野1319番地3

さくら市氏家保健センター内

TEL 028(682)3518

FAX 028(682)5760

第11回塩谷郡市医師会市民公開講座開催



平成27年10月12日(祝)第11回塩谷郡市医師会市民公開講座が高根沢町町民ホールで開催された。当日は連休にもかかわらず、500名の市民が参加した。第一部は、高根沢フリージアコーラスのミニコンサート『心のうた・ふるさとのうた』を25名のグループが熱唱した。特に「茜の空」で感激のあまり涙を流す人もいて、素晴らしいコンサートであった。後半は会場一体となった合唱を行い、童謡など懐かしい歌に皆が感動を感じることができた。第二部の基調講演は、本会の市民公開講座では初めて眼科領域を取り上げ、自治医科大学眼科学講座の川島秀俊教授による『眼の病気を正しく理解しよう』で加齢に伴う眼の病気についての講演会であった。最新の医療技術の話があり、眼の病気を正しく理解し現代の医療で解決できることを知り、眼の病気に恐れることの無いことが分かった講演となった。



平成27年度第3回役員会報告

平成27年9月28日(月)午後7時から医師会事務室で開催された。

出席者：山田会長、岡副会長、阿久津会計担当理事、半田、植木、高橋、手塚、嶋尾理事、村井、仲嶋監事



第1号議案 平成28・29年度理事・監事及び各種委員会委員の推薦依頼について

来年の4月の定時総会では役員、委員会委員改選が行われることから、日程などの予定が示され、各医師団に理事、監事、委員の推薦名簿を平成28年2月10日までの提出依頼があった。なお、来年度から理事定数が10名から12名に増員される。選挙の公示日は平成28年3月25日、立候補日は4月8日まで、選挙は4月16日(土)の定時総会の際に行われる。

第2号議案 市民公開講座の進捗状況について

担当の高橋理事から進捗状況について説明があった。

第3号議案 在宅医療連携拠点整備促進事業について

岡副会長から、平成28年、29年の2カ年の県の補助事業として郡市医師会が中心となり在宅医療拠点づくりが行われることについて説明があった。来年度から医師会の事業の大きな柱となることから、現在休止している医療機能検討委員会に係る

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	佐藤 勇人 jimu@midori-satohp.or.jp 岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp	糸川 kumekawa.shioya@gmail.com 高橋 takahashi@e-shioya.jp

る委員を集めて行うことになった。

第4号議案 認知症ケア医療介護連携体制構築事業について

この事業は9月7日付で県医師会から今年度10月から来年3月までの事業として①認知症ケアパスの作成②認知症ケアパスに関するかかりつけ医等専門職向け研修会開催③住民向け講演会などを実施するための補助事業で、各医師団から各1名の委員で委員会を開催することになった。

第5号議案 大規模災害発生時の医師及び医療従事者の協力に関するアンケート結果報告

大規模災害発生時に塩谷地区に開設される救護所で診療を行う際に黒須病院と塩谷病院の医師、看護師、事務職で編成される医療救護班だけでは十分でないことから、各医療機関にも協力が可能か否かのアンケートを6月に行った。その結果、22医療機関から医師21名、看護師19名、事務員16名の協力の申し出があった。

第6号議案 塩谷地区おとな・こども夜間診療室の名称変更について

現在行っている「塩谷地区おとな・こども夜間診療室」は日曜日が小児科医1名と内科医等1名の2名体制であるが、祝日、土曜日は内科医等の1名体制である。そのため、場合によっては乳幼児などの診療はお断りする場合がある。しかし、「こども」と謳っているのに小児を診ていないとの苦情があったことから、誤解を避け引き続き多くの医師に参加してもらうためにも現在の名称から「おとな・こども」を外し、「塩谷地区夜間診療室」と名称を変更することが前回の役員会で決議されたが、その後の広域行政の対応について報告された。

第7号議案 日本医師連盟推薦「自見はなこ」候補の対応について

来年夏の参議院比例区(全国区)に立候補予定の自見はなこ氏への支援協力の案内に対する対応について意見が出された。

第8号議案 その他

阿久津理事から集团的個別指導・個別指導について話があった。現在関東信越厚生局栃木事務所では、病院・診療所の内科外科など類型区分してそのレセプト点数の上位8%が集团的個別指導となり、4%が個別指導になる。この点に関し、栃木県は他県特に西日本に比べレセプト点数が低いのに一律指導となるのはおかしいなどの意見や、この問題は郡市医師会レベルではなく県医師会が対応すべきだとの意見が出た。また、栃木県立学校腎臓検診

における精密検査を保険診療として行う際の留意点について話があった。また、来年度の塩谷地区夜間診療室の当番表をつくるため、アンケートを行うことと、休日当番と夜間診療室とのリンクのため、各医師団に早めに当番表を作成して報告するよう要請があった。

学術講演会1

「めまいと不眠～オレキシン受容体拮抗薬の新知見を含めて～」

日時：平成27年3月10日(火)

講師：獨協医科大学看護学部看護医科学(病態治療)領域 教授、獨協医科大学睡眠医療センター

宮本 雅之 先生



めまいと不眠の患者さんは、脳神経領域の専門機関のみならず、プライマリーケアでの対応が求められる。宮本先生の講演は、めまいと不眠のメカニズムをわかりやすくお話いただき、原因に応じた治療

が大切である事を教えていただいた。現在その投与が問題となっているベンゾジアゼピン系の睡眠剤は、その副作用から慎重投与の必要性が教示され、昨年11月に発売されたオレキシン受容体拮抗薬「ベルソムラ」に関しては、従来の睡眠剤と違うメカニズムであり、臨床面での期待感があるとの事だった。(佐藤勇人)

学術講演会2

「抗血栓薬と上部消化管粘膜障害について」

日時：平成27年6月9日(火)

講師：獨協医科大学 消化器内科

講師 笹井 貴子 先生

高齢化社会を迎え処方機会が増加している抗血栓薬だが、重篤な副作用として頭蓋内出血と消化管出血がある。笹井先生は、抗血小板薬による消化管出血の予防として潰瘍既往歴、高齢者、抗血栓薬の多剤服用者などハイリスクな症例に



対してPPIの投与が重要であることを強調された。また、新規経口抗凝固薬では、下部消化管も含め消化管出血は減少したとは言えず、安全性は今後の検討課題であることが示された。(橋本敬)

学術講演会3および納涼会

「栃木県の脳梗塞の現況と抗血小板療法について
～脳卒中治療ガイドライン2015を踏まえて～」

日時：平成27年7月24日（金）

講師：済生会宇都宮病院 脳卒中センター

センター長 今井 明 先生



今井先生は日本脳卒中協会栃木県副支部長を務められており、今回の講演では栃木県の脳梗塞の現状と心房細動などの心原性の脳梗塞と動脈硬化に基づく脳梗塞の治療薬の違い、抗血小板薬や抗凝固薬について分かりやすく解説してくれました。講演会の後、納涼会が開かれ、新会員の国際医療福祉大学塩谷病院の福井康之先生が紹介された。（編集部）

板薬や抗凝固薬について分かりやすく解説してくれました。講演会の後、納涼会が開かれ、新会員の国際医療福祉大学塩谷病院の福井康之先生が紹介された。（編集部）

学術講演会4

「内視鏡による食道・胃・大腸がんの診断と治療」

日時：平成27年9月8日（火）

講師：栃木県立がんセンター

消化器内科 小林 望 先生



栃木県立がんセンター所長の清水秀昭先生ご出席のもと、食道・胃・大腸がんの最新治療をテーマに学術講演会が行われた。同センターにて行われている内視鏡を用いた診断方法や、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）について写真や動画を交えながらの症例報告が行われた。また、専門医の立場から現在行われている便潜血検査の現状と、大腸内視鏡の必要性について解りやすくお話しいただきとても有意義な会となった。（根本祐太）

用いた診断方法や、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）について写真や動画を交えながらの症例報告が行われた。また、専門医の立場から現在行われている便潜血検査の現状と、大腸内視鏡の必要性について解りやすくお話しいただきとても有意義な会となった。（根本祐太）

*新入会員紹介

27年4月1日入会

黒須病院

星 俊安 先生



27年7月1日入会

さくら産院

小池 泰敬 先生



～今後の学術講演会の予定～

平成27年

- 11月 5日(木) 産業医研修会
- 11月 17日(火) 骨粗鬆症治療戦略
- 12月 3日(木) 産業医研修会
- 12月 8日(火) 透析関連
- 12月 15日(火) 主治医研修会

平成28年

- 1月 12日(火) 脳卒中・急性心筋梗塞対策
専門研修
- 1月 22日(火) 糖尿病関連
- 講演会終了後、新年会を行います
- 1月 27日(火) } かかりつけ医認知症対
- 2月 3日(火) 応力向上研修会
- 2月 9日(火) B型肝炎ワクチン関連

※ぜひ多くの先生方の参加をお願いします！

尾形副会長 下野新聞 地論(じろん)に連載

下野新聞の毎週水曜日に県内 25 市町で活躍する人たちの意見や提言のコーナーである「地論(じろん)」が連載されています。このコーナーに9月16日、本会の尾形新一郎副会長が「高原山」について豊かな自然と水の恵みを守り、未来の子供たちに継承することが私たちの命題であると提言しています。昨年、本会は栃木県医師会正副会長会議で放射性廃棄物の最終処分場建設に反対を表明し「豊かな自然と水を守るしおや宣言」を提案しました。また、次回の掲載が予定されていますので、お楽しみにして下さい。



自宅会員の吉松道哉先生(92歳)が、8月17日に、ご逝去されました。佐藤病院の佐藤智子先生(83歳)が、8月23日に、ご逝去されました。謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

塩谷郡医会会長 黒須惟精

医家の黒須といえば、塩谷地区では黒須病院の黒須家のことをさす。塩谷地区では黒須の名前の医師は黒須家以外には存在しないと考えられていた。しかし、明治時代の中頃、塩谷地区に黒須惟精（これあき）という医師がいて、しかも医会の会長を務めていたのである。明治に入って初めてできた医師の組織が開業医会である。明治16年の頃である。そして明治26年、県令により栃木県医会と各郡市医会が発足するが、塩谷郡医師会の初代会長が誰だったのか記録は残っていない。この時代の会長名の記録としては唯一、明治29年6月7日喜連川の大草仲次郎の弔詞に「塩谷郡医会会長 黒須惟精」の名前が残っているだけである。しかし、これ以外に黒須が塩谷地区にいた形跡は何ひとつ見つからないのである。

黒須ほど謎に満ちた人物はいない。例えば、ある医師の名前が名簿にあるが、その人物が何をしてどんな人物かわからない時、それは記録や手がかりが残っていないだけだと納得できる。しかし、黒須は塩谷郡以外の場所に足跡を残しているのである。

『宇都宮医師会史（昭和61年発行）』によると黒須惟精は県立宇都宮病院の二代目院長であった。県立宇都宮病院（前身は共義病院）は明治5年5月7日、宇都宮県が音頭をとり有志の寄付によって設立された、栃木県で最初の病院である。初代院長が志賀天眠（宇和島藩医）、二代目が黒須惟精、三代目が安部文安（後の宇都宮医師会会長）、四代目が医学士の石黒宇五治、五代目が大橋和太郎（栃木県連合医会設立の立役者）と歴代院長は錚々たる顔ぶれである。また、明治7年には栃木市にあった県立栃木病院の院長に就任したという公文書も残されている。（注：明治6年に栃木県と宇都宮県が合併して栃木県となる）

黒須は明治9年に全国で統一されて初めて与えられた医師免許の番号が全国で267番であった。これは栃木県で一番早い番号である。

この時の免許は医師試験（東京、京都、大阪の3か所で開催）に合格するか、大学（東京大学のみ）を卒業するか、医師として高い地位の公職に就いているかのいずれかの者のみに与えられたのである。

ちなみにその次の番号が277番安部文安（宇都宮病院院長）、280番勾坂選（宇都宮病院副院長）、281番磯良節（黒羽藩医磯良三の長男で栃木医学校講師）、282番大久保元亨（宇都宮藩医で宇都宮病院医員、後に開業）、327番圓山庸、353番阿久津資生（大田原出身で順天堂医事研究会の代表）となっている。これだけ華々しい経歴を持つ人物が宇都宮病院院長あるいは栃木病院院長をいつ辞めて、どこに開業したかがわかっていないのである。

明治22年刊「日本医籍」によると黒須の住所は烏山町となっているため、烏山町出身だったと考えられる。『烏山町史』によると烏山藩には寛政4（1792）年の時点で「黒須玄洞」なる20人扶持程度の藩医がいた。烏山では黒須という名字も珍しくなく、藩医の黒須家出身だったのかもしれない。この時代の烏山藩は蘭学が盛んで、「高田良道」という北関東では洋学医術で有名な藩医がいて杉田玄白や大槻玄沢と交流があった。

黒須の名前は明治31年刊「帝国医籍宝鑑」には見出すことができない。黒須は明治20年代に塩谷地区のどこかで開業し、その輝かしい経歴から医会の会長となったが、明治30年代に死去し、後継者もいなかったものと推測している。

（担当：岡 一雄）



県立宇都宮病院

宇都宮医師会史より